

巻頭言：研修委員会の活動を振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・	1
特集：神図協 この1年の動き	
研修委員会、地域資料委員会・・・・・・・・・・・・・・・・	2
大学図書館協力委員会、広報委員会・・・・・・・・・・・・・・・・	3
連載：わたしのイチオシ 神奈川県立川崎図書館の開館 60 周年について・・・・・・・・	4

研修委員会の活動を振り返って

研修委員会委員長 （厚木市立中央図書館）

葉山 清美

平成から令和への節目の年に研修委員会委員長を拝命しました。

神奈川県図書館協会は、公共図書館、大学図書館、専門図書館と館種の異なる図書館から構成されており、研修につきましても多様なプログラムを組んでいることが特色となっております。

各館における業務も多忙化している中で、委員を選出いただいていることに、また、積極的に参加いただいていることに感謝申し上げます。

近年、人と本、人と情報をつなぐという図書館の基本的な役割を踏まえた上で、更に、地域の活性化の拠点として、地域の交流の場としてなど、ビジネス・介護・子育て・地域再生など、様々な課題をサポートする場としての役割を担う図書館が増えています。

社会情勢が複雑化し、変化のスピードの早い現在では、自治体内の他部局との連携もさることながら、館種を超えた神奈川県図書館協会の活動の重要性も増しているように感じられます。図書館運営の手法も多様化しており、立場の異なる職員が交流し、意見を交わすことのできる稀な機会となっております。

更に、図書館総合展や子ども読書活動推進フォーラムは、市民やボランティアなど、図書館を利用される皆様が、何を期待しているかを知ることができる場ともなっております。

現在のサービスを振り返り、ブラッシュアップを図るために、他館の活動を知り、新たなサービスを導入するためのきっかけにと、研修会をご活用ください。

今年度は、講演・講座・事例報告等を7回、施設見学を4館実施するとともに、神奈川県図書館協会の会員のページにおいて、当日使用されたレジメ等の掲示を開始いたしました。

令和2年度につきましても、皆様のお力添えをお願いいたします。

研修委員会

研修委員会では、次のとおり研修会を開催しました。
詳しい報告はホームページをご覧ください。

(<http://www.kanagawa-la.jp/>)

回数	研修テーマ・講師（敬称略）	開催日
第1回	施設見学「神奈川県立生命の星・地球博物館」	7/2
第2回	施設見学「国立国会図書館東京本館」	7/18
第3回 ・ 第4回	講演「英国の大学図書館における著作物の教育利用と支援」 講師：海浦浩子氏（横浜国立大学学術情報センター） 施設見学「神奈川工科大学附属図書館」	9/5
第5回	講座「キャリアアップを考える～専門図書館の事例に学ぶ」 講師：鈴木良雄氏（専門図書館協議会 理事） 事例報告「電子ジャーナル導入の実際／PR 活動について」 講師：廣瀬洋氏（神奈川県立川崎図書館）	9/12
第6回	研修「窓口サービス担当者のための聴覚障がい者とのコミュニケーションの基本」 講師：井上良貞氏、小西徹氏（横浜市聴覚障害者協会）	10/16
第7回	図書館総合展フォーラム「図書館に新規利用者を呼び込む！ 図書館とWikipediaタウン」 講師：海瀬氏（Wikipedia 日本語版 元管理者）、小澤多美子氏（県立長野図書館 企画協力課 主査）、小松晶子氏（神奈川県立図書館 資料部図書課長）	11/14
第8回	神奈川県子ども読書活動推進フォーラム 講演「絵本と鳥の巣の不思議―鳥の巣が教えてくれること」 講師：鈴木まもる氏（画家、絵本作家、鳥の巣研究家） 事例発表・実演：青葉おはなしフェスティバル実行委員会	12/8
第9回	講座「ブックトークをやってみよう」 講師：杉山きく子氏（公益財団法人東京子ども図書館 理事）	2/4
第10回	講演「視聴覚関係の著作権について」 講師：内田剛氏（東海大学法学部講師）	2/18

地域資料委員会

地域資料委員会は、その前身を郷土・出版委員会といい、郷土資料集成などの編集発行を行ってきましたが、平成27年度から名称・目的が変更され、地域資料委員会として発足しました。県内図書館所蔵資料のデジタル化についての調査及び結果報告書の作成、さらに神奈川県図書館協会90周年記念事業として地域に残る映像資料のデジタル化及びDVDの配布を行ってききました。

令和元年度の活動については、前年度に検討課題のアイディアとしてだされた内容を基に、3回にわたり委員会を開催し検討を重ねました。郷土のレファレンスに役立つツールや人材の育成、各館の特色ある地域資料・コレクションの一覧、新聞データベースなど複数の観点から話し合いました。

郷土のレファレンスに役立つツールや人材の育成については、国立国会図書館レファレンス協同データベースの利活用研修開催を検討しています。この事業はレファレンス事例などのデータの蓄積・提供により、図書館等におけるレファレンスサービス及び一般利用者の調査研究活動の支援を目的としています。この事業を通じた地域資料の利活用促進や、研修による協会会員のレファレンススキル向上などにつなげることができるのではないかと考えています。研修委員会の皆様と相談させていただきながら、実施に向けて準備を進めています。

また、各館の特色ある地域資料・コレクションの一覧については、『神奈川のふみくら』（神奈川県図書館協会／編 有隣堂 平成6年）などを参考にしながら、現時点での加盟館の状況をまとめることができれば有用な情報となるのではないかと考え、検討しています。

さらに、神奈川県全域全般における有用な地域資料として、地域の新聞データベース構築の可能性についても話し合いました。情報収集等を行いました。時期を同じくして、神奈川新聞社がWEBマイクロフィルムサービスを開始することがわかりました。

現在、検討中の取組ばかりですが、令和2年度には、何らかの形で加盟館の皆様へ地域資料に関する有用な情報や活用につながる研修の機会をご提供できればと考えています。

〔委員長 横浜中央図書館 稲葉 伊岐子〕

大学図書館協力委員会

大学図書館協力委員会は、大学図書館に関する調査・研究と相互協力事業の推進を目的としています。令和元・2年度は、調査研究テーマとして「大学図書館を取り巻く諸問題」を掲げ、今年度は、7月及び12月の全2回（第3回は新型コロナウイルスの影響により中止）本委員会を開催しました。テーマとして掲げた、「大学図書館を取り巻く諸問題」については、各館が抱えている課題を共有した上で、共通して課題と認識している「電子ジャーナルの高騰」と「図書館業務の委託化」を取り上げて、更なる情報共有・意見交換を行っています。

特に、電子ジャーナルは、パッケージ契約の価格高騰によって予算を圧迫していることが多くの大学図書館で問題となっています。このため、パッケージ契約の見直しの有無や、見直しに至った経緯、見直しの効果など、各館での対応状況について情報共有を行い、予算の仕組み等、各大学で異なる事情がある中で、どのような対応を取ることができるかについて協議しました。また、電子ジャーナルの価格高騰に関しては、文部科学省によるジャーナル問題検討部会の第1回が2020年1月27日に開催されており、今後もこのような最新の動向について、情報共有・意見交換を行っていきます。

また、図書館業務の委託化についても、人件費の高騰や委託する業務内容など、各館で抱えている課題に関する意見交換を行い、対応について協議していくことになっています。

そのほかに、本委員会では、協会の関連事項についての情報を共有しつつ、各大学図書館における取組みについても情報交換を行いました。

今後とも、こうした大学図書館に関わるさまざまな課題に沿って調査・研究を進めるとともに、相互協力の推進と連携を図っていきたいと考えています。

[委員長 横浜市立大学 学術情報センター
河西 徹]

広報委員会

広報委員会では協会報及び図書館だよりの発行、ホームページの管理、図書館総合展でのブース展示を行いました。今年度の主な活動内容は次のとおりです。

1 協会報の発行（年4回）

○267号（2019年7月1日発行）

平成31年度神奈川県図書館協会総会報告
神奈川県図書館協会人材育成事業

○268号（2019年10月1日発行）

特集「大学図書館探訪」横浜市立大学学術情報センター／横浜商科大学図書館／日本大学図書館生物資源科学部分館

わたしのイチオシ「大学図書館と協同するサークル【情報バリアフリー推進会】～弱視の方について考えて行動する～」(鶴見大学図書館)

○269号（2020年1月1日発行）

特集「第21回図書館総合展 ブース展示報告・フォーラム報告」

わたしのイチオシ「専修大学図書館 図書館ボランティア『Compass』」(専修大学図書館)

○270号（2020年4月1日発行）

特集「神図協 この1年の動き」

わたしのイチオシ「神奈川県立川崎図書館の開館60周年について」(県立川崎図書館)

2 「第21回図書館総合展」ブース展示

今年度は11月12日（火）から14日（木）までパシフィコ横浜で開催されました。ブース来場者は3日間で延べ338人を数えました。

ブースでは、各委員会の活動パネルや加盟館の概要を映像で紹介するとともに、レシートロールを再利用した本立ての展示や作り方を案内しました。

また、来場者アンケートでは「神図協の活動や加盟館の紹介、イベント情報を提供してもらいたい。」との声がありました。アンケート結果も参考にして、今後も、多くの皆さんが図書館を利用していただけよう加盟館のさまざまな取り組みを協会報やホームページなどで情報提供させていただきます。

[委員長 小田原市立中央図書館
古矢 智子]

2018 年 5 月にかながわサイエンスパーク（以下「KSP」）にて移転再開館した当館は、2019 年に開館 60 周年を迎えました。

そこで、2019 年 4 月から 11 月にかけて、「ものづくり情報ライブラリーで《出会う》」をテーマに、様々な記念行事、年史や目録の刊行を行いました。

4 月、東京理科大学栄誉教授で光触媒反応の発見で著名な藤嶋昭氏に、「科学と先人の言葉」と題した講演会をお願いしました。その後、移転後の目玉資料である「電子ジャーナル」について、展示（4 月～「冊子から電子へ ～ジャーナルの今昔～」）及び講座（5 月）、科学技術の潮流である「A I（人工知能）」をテーマに、専門家と一般の方が飲み物片手に気軽に科学の話題などを語り合うものづくりカフェ（6 月）、来たるオリンピック・パラリンピックを意識した「車いすラグビーの技術」について、競技用車いすに乗って動かす体験も含んだ講演会（7 月）を開催しました。8 月には、KSP を会場とした「第 16 回かわさきサイエンスチャレンジ～感動科学と楽しいものづくり～」に参加する形で子ども向けの映画会「宇宙シネマ in 川崎図書館」を行いました。

締めくくりは、11 月の記念講演会。講演会に先立って、藤嶋氏にゲストスピーチ「最近の科学技術の情勢とものづくり ～光触媒を中心に～」もしていただきました。

講演テーマは、2019 年に小惑星リュウグウに着地を果たした「はやぶさ 2」です。先行して、8 月から「「はやぶさ 2」の技術 ～ものづくり情報ライブラリーの資料から～」の展示も行っていました。講師に、元 JAXA 宇宙科学研究所 安全・品質保証室長の清水幸夫氏をお招きし「「小惑星探査機はやぶさ 2」とものづくり技術」と題するご講演をいただきました。ものづくり技術の話題や JAXA のプロジェクト・マネジメント、宇宙環境や「はやぶさ」の目的や意義へとお話が進み、「はやぶさ 2」の着地の動画が披露されると会場也大いに盛り上がりました。

刊行物も 2 冊発行しました。まず、50 周年以降最近の 10 年間を中心に記述した『神奈川県立川崎図書館 60 年史』です。移転前の図書館での業務経

験のある職員チームが、原稿作成、校正、編集作業を行いました。見やすいレイアウト、読んで楽しいコラムなどの工夫も盛り込みました。

もう一つは、当館にゆかりのある科学者、研究者、技術者を始め関係者の方々と当館司書が選んだ本の紹介目録『県立川崎図書館で出会う本 ～研究者、技術者、司書が選ぶ 60 冊』です。職員のアイディアによる企画で、具現化のために、「対象とする読者は？」「原稿執筆はどのような機関・人に依頼するのか？」など、館全体で検討を重ねました。表紙のイラストも職員の手によるものです。2 冊とも、当館のホームページに全文をアップしましたので、ぜひご覧ください。

・『神奈川県立川崎図書館 60 年史』

<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/guide/60anv.htm>

・『県立川崎図書館で出会う本 ～研究者、技術者、司書が選ぶ 60 冊』

<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/information/osirasel9023.htm>



「小惑星探査機はやぶさ 2」とものづくり技術」の様子

一連の記念行事には、「ものづくり情報ライブラリーで《出会う》」のテーマのもと、「ものづくりに従事している技術者、研究者などのビジネスパーソンが、新しいアイデアを生み出すきっかけとなる情報や人との出会いを創出する場」を目指して館全体で取り組みました。

当館は、今年で移転後 3 年目を迎えますが、引き続き「ものづくり情報ライブラリー」として機能やサービスの一層の充実に努めていきたいと思っています。（神奈川県立川崎図書館 菅井紀子）